



水産海洋シンポジウム

漁業者・市民が参加する沿岸域での水産海洋モニタリング

日時：2025年3月15日（土）9:30～15:30

場所：東京海洋大学白鷹館 1F 講義室（オンラインとのハイブリッド開催を予定）

共催：日本海洋学会

後援：日本海洋政策学会

コンピナー：渡慶次 力（福井県大海洋生資）・笠井亮秀（北大院水）・
牧野光琢（東大大気海洋研）・桑村勝士（宗像漁協）

事前の参加登録先（当日の現地参加も可能ですが、できるだけ事前登録をお願いします）：

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSezlvW-LOrYMCd6FWAYjAxCOxdlQrKSgXMTfyeTjNTDCywDVQ/viewform>

（締切 3月7日 23:59 JST）

問合せ先：tokeshi@fpu.ac.jp（渡慶次）

* 昼休みに水産海洋学会の各賞授賞式，終了後の 15:40 から定時総会が開催されます。



司会：黒田 寛（水産機構資源研）

水産海洋学会会長挨拶 9:30～9:35

木村伸吾（一般社団法人水産海洋学会会長）

開催趣旨説明 9:35～9:45

渡慶次 力（福井県大海洋生資）

座長：渡慶次 力（福井県大海洋生資）

1. 漁業者・市民が参加する水産海洋モニタリングで重要な事
～国連海洋科学の10年とトランスフォーマティブ・サイエンス～
牧野光琢（東大大気海洋研） 9:45～10:20

2. 漁業者が行う水産海洋モニタリングのしくみづくりとその課題
桑村勝士（宗像漁協） 10:20～10:55

各賞授賞式 10:55～11:30

休憩 10:55～12:30

座長：笠井亮秀（北大院水）

3. 漁業者観測と海況予測の互助関係



- 広瀬直毅 (九大応力研) 12:30～12:55
4. スマート水産業 ～データの共有と資源の共有～
和田雅昭 (はこだて未来大) 12:55～13:20
5. 水産海洋データの管理と利活用
鳴海吉洋・斎藤克弥 (JAFIC) 13:20～13:45
- 座長：牧野光琢 (東大大気海洋研)
6. ウミンチュと取り組んだ「資源調査」～漁業者を巻き込んだ調査・研究～
秋田雄一 (沖縄水海技セ) 13:45～14:10
7. 市民と取り組む環境 DNA モニタリング
笠井亮秀 (北大院水)・近藤倫生 (東北大院生命)・伊藤雪穂 (アースウォッチ)
14:10～14:35
- 休憩 14:35～14:55
8. 総合討論 14:55～15:30
座長：渡慶次 力 (福井県大海洋生資)・笠井亮秀 (北大院水)・
牧野光琢 (東大大気海洋研)・桑村勝士 (宗像漁協)

(シンポジウム終了後の 15:40 から一般社団法人水産海洋学会 2025 年度定時総会)

開催趣旨：水産海洋研究におけるモニタリング（以下、水産海洋モニタリング）の目的は、水産業の対象となる生物およびそれらが生息している海の状態について、継続的に観測し、将来を予測するための定量的な情報を得ることである。近年の地球温暖化に伴い、海洋熱波をはじめとした海洋環境の急変や水産資源の変遷が水産業に大きな影響を与えていることから、水産海洋モニタリングの重要性はますます高まっている。水産海洋モニタリングは、これまで公設の研究機関や大学などが主体となり実施されてきたが、近年の技術の進歩により効率的な水産海洋モニタリングが可能となり、研究機関・漁業者・一般市民が協働するトランスフォーマティブ・サイエンスも広がりつつある。本シンポジウムでは、漁業者・市民が参加する沿岸域での水産海洋モニタリングの現状を紹介し、その問題点や解決すべき課題、利点や多様なニーズ、将来性などを考えることで、持続可能な漁業やシチズンサイエンスの観点から今後の水産海洋モニタリングのあり方を議論する。